



WELL通信



定期巡回サービス特集

日常から夜間緊急時まで、
24時間途切れることのないケアを

ウエルの
の今を深掘り!

■ 小規模多機能型居宅介護施設 ウェリスト 最期までご家族と共に ご自宅での生活を支えます

レクリエーションで
積極的に地域参加

ウェリストでは月に2〜3回、食事やゲーム、外出などのレクリエーションを開催しています。4月はお花見に出かけ、7月は七夕の短冊を書いて飾り付け、8月は盆踊りを楽しんでいただくなど、季節を感じられる企画を開催しているほか、小学校の行事や社会福祉協議会のイベントにも参加し、地域の人々との関わりを深めています。お子さんとお話をされると笑顔になられる利用者様も多く、地域とのつながりは非常に大切だと感じています。今後も地域参加に注力していきます。



また、レクリエーションを通じてADLの低下を防ぐため、歩行やお食事など、できることは自分で行っていただけるように声をかけ、身体機能や認知機能の維持に努めています。

クリニックと密接に連携し
体調の変化に迅速に対応

独居の方や病院が苦手な方は、普段はなかなか病院に行くことができません。ウェリストでは隣接する清光クリニックと薬局と密に連携をとり、月に一度利用者様を病院にお連れして受診をしていただいています。利用者様の約半数は清光クリニックに主治医がおられるため、連

携も非常にスムーズ。血圧測定時などにスタッフが利用者様の身体に異変を感じた際もすぐにクリニックに

私たちが
お迎えます!



相談し、迅速に対処いただける体制を整えています。
また、スタッフはベテランが多く、認知症の方の対応にも慣れていきます。決して否定することなく利用者様の気持ちに寄り添った対応ができるため、ご家族にも安心してお任せいただいています。

■ご家族と利用者様の
ご希望に柔軟に応えます

「施設に行きたくない」という利用者様も、訪問してお話をする中で、「ご飯だけ食べに行こうかな」とお気持ちが変わり、通所サービスを利用するという形で社会参加を始めることもあります。その際も、訪問時と同じスタッフが対応するため、利用者様も安心されます。また「長時間いたくない」という方は入浴だけでお帰りをいただくこともあれば、ご家族の介護負担を軽減するために、ご希望に応じて普段は宿泊されない方に宿泊いただくこともあり、柔軟な対応を行なっている点も特徴です。

サービスの内容は一人おひとり異なりますが、最期を迎えた時に「ウェリストに来てよかった」と思っていただけのように、ご家族と共に二人三脚で「家で過ごしたい」と希望される利用者様を支えます。

厨房だより

刀根山美豊苑

毎日食べても飽きないお食事を

刀根山美豊苑では、味、食感、見た目こだわりの、利用者様の食欲が増すお食事作りを心がけています。特養では食べ慣れた家庭的なメニューを、デイサービスではメインを2品、小鉢も品数多くご用意するなど、バラエティに富んだメニューを提供しています。

厨房スタッフ一同、意見を出し合いながら盛り付けにも工夫しています。利用者様の喜びの声を力に、楽しんでいただけるお食事作りを続けてまいります。



「この食事を家でも食べたい」というデイサービスの利用者様からのご要望に応え、お弁当の配食サービスを開始しました。メニューや盛り付けが多彩で、「毎日食べても飽きない」「家族の分も注文したいわ」と好評です。



創立記念日や敬老の日などの行事食では、お家で作るには手間ひまがかかる凝ったお食事を、鮮やかに盛り付けて提供しています。



日々のお食事は、ウェル清光会のブログでも紹介しています。ぜひご覧ください。

ウェルグループ

豊中市

- 清豊苑 [特]
- 利倉清豊苑 [地/デ/グ/小/定]
- 美豊苑 [特/ケ]
- 刀根山美豊苑 [地/デ]
- 輝豊苑 [デ/グ]
- ウェルケアプラザセンター

- ウェリスト [小/デ]
- 社会福祉法人香聖会 豊田中 [地/グ/小]
- 庵とよなか庄本 [有]

宝塚市

- 宝塚清光苑 [特/デ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- 陽光苑 [地/デ/グ]
- 西宮市
- パセム西宮 [有]
- ケアプラザセンター西宮清光苑



[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [デ]デイサービス [グ]グループホーム [小]小規模多機能型居宅介護施設 [ケ]ケアプラザセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス

日常から夜間緊急時まで、 24時間途切れることのないケアを

ウエル清光会では、宝塚清光苑(宝塚市)と利倉清豊苑(豊中市)の2つの事業所で定期巡回サービスを提供しています。今回は、定期巡回サービスのメリットや利用者様への想い、ケアマネジャーから見た定期巡回サービスについて、計画作成責任者とケアマネジャーが話し合いました。

要介護1〜5まで「自宅」で支援

中丸…どのような方が定期巡回サービスを利用されていますか？

山田…宝塚清光苑では、利用者様の平均介護度は3前後です。服薬確認や排泄介助、食事介助、清拭や更衣のほか、「座位が安定していないので見守りをしてほしい」など多様なニーズに応じて長時間のケアにも対応しています。

尾崎…利倉清豊苑では要介護度2前後の方が多いです。一日複数回訪問し、安否確認や服薬確認、買い物代行に加え、夏場なら水分補給の支援や空調の確認なども行っています。

水谷…私が担当している利用者様も介護度は低いのですが、安否確認等で毎日訪問してもらっています。このうちお一人のご自宅にはエアコンがないので室内が危険な暑さに達することがあり、職員が毎日訪問し

私たちがお話ししました



上段左から
(宝塚清光苑)副施設長/中丸龍次、管理者/山田智史、管理者/松尾年生、(利倉清豊苑)計画作成責任者/尾崎孝介、(美豊苑)管理者/水谷朋子、(ウエルケアプランセンター-管理者)三浦茂幸

て状況を迅速に判断し、クーリングなど柔軟に対応して下さることが本当にありがたいです。

三浦…私の担当する利用者様も、定期巡回サービスのおかげでしっかり服薬できています。ただ、介護度が重度になると、定期巡回サービスとデイサービスを組み合わせるより小規模多機能に一括でお願いするケースの方が多いと思いますが、いかがでしょうか？

尾崎…利倉清豊苑では要介護度5の利用者様もいらつしやいます。この方はまだお若くて認知症でもないため、入所も通所も望んでおられず、ご自宅で過ごしたいという希望が強いです。定期巡回サービスでは排泄介助や週に一度の清拭、更衣の支援を行っており、夜中にも緊急コールでパッド交換に駆けつけています。

三浦…昼夜を問わずボタンを押せば駆けつけてくれ、夜間のリスクを低減できるのは

制限がない定期巡回サービスのメリットが活かされた事例だと思っています。

長時間のケアにも対応できる体制を

松尾…私が以前担当していた利用者様のケースでは、一日3〜4回の訪問介護に加え、デイサービスや福祉用具レンタルなども合わせて自費

が30万円ほどかかっていた。そこで訪問介護の部分を定期巡回サービスに置き換

定期巡回サービスの魅力ですね。
中丸…転倒リスクがある方の場合、施設への入所を検討されることが多いのでしょうか？

三浦…そんなことはありません。ご家族は心配されて入所を検討されますが、ご本人はご自宅で過ごしたいという強い思いをお持ちの方が多いです。緊急対応できるシステムがあることをご家族にご理解いただければ、転倒への不安もかなり軽減できるのではないのでしょうか。

水谷…そうですね。特にご家族が同居でない場合は施設を希望されますが、私はいつも「入所しても転倒リスクがゼロになるわけはありませんよ」とご家族にお伝えしています。定期巡回サービスでも施設入所でも同様のリスクがある中で、「家にいたい」というご本人のお気持ちをどこまで尊重できるか。そういう意味で、定期巡回サービスは非常に大きな意味を持つサービスだ

えることで、自費を2〜3万円まで抑えられ、非常に喜ばれました。

三浦…清拭や食事介助、入浴介助など長時間のケアが必要な要介護度4、5の方になると、単位数が上がっていきますから、「同じ単位数で一日二回の訪問なら使い慣れたサービスが良い」と訪問介護を選ぶケアマネジャーも多いのでは？

水谷…それも一理ありますが、訪問介護の場合、例えば2週間に一回の入浴の日利用者様の体調が悪くて入浴できないと、また2週間待たなければなりません。その点定期巡回サービスは、訪問時に「今日は体調が良いから清拭させてもらおう」という柔軟な対応ができますよね。

尾崎…そうですね。職員一人ひとりがその場で「どこまで対応してよいか」を判断

とっています。

短時間のケアでも関係性を構築

中丸…ケアマネジャーの方々が定期巡回サービスに求めることは？

松尾…食事介助や入浴介助など時間のかかるケアもしていただけるので非常にありがたいのですが、短い時間の中でもコミュニケーションを深めていただけたらうれしいです。

山田…確かに、ゆっくりとお話をするのは難しいのですが、作業をしながらでも声かけや会話をして利用者様との仲を深めるよう努めています。



サービス品質の向上に向け、定期的な勉強会を実施

することになります。私は管理者として、「臨機応変に、利用者様のためになるサービス提供をしよう」と伝えていきます。今後は時間のかかるケアにも対応できる体制づくりを行っていききたいですね。
中丸…ご本人のできることは奪わず、ご家族の状況もふまえた上で、継続してご自宅で生活ができるように支援を行っていきたいですね。管理者とケアマネジャーが密に連携をとり、プランにないニーズが出てきた時も相談ができる関係性を築くことが大切だと感じました。
尾崎…家で最期を迎えたい」という利用者様のお気持ちやご家族の夜間の不安に対して、「呼んでくださればいつでも来ます」と言える体制を作り、ニーズを支えたいと思います。



尾崎…短時間のケアでも、一言も喋らず仕事だけを終えて帰ると、会話を交えるのとでは利用者様の心象は変わりますね。訪問の予定を組むときは少し時間に余裕を持たせているので、職員によっては必要なことを短時間で終わらせ、残りの時間をコミュニケーションに使っているようです。
中丸…逆に、ご本人がコミュニケーションを望んでおられないこともありますね。宝塚清光苑では、インターホンを鳴らして応答があれば安否確認とする、というケースもありました。ただ、少しずつ関係性を築く中で、最後には心を開いてくださり、お部屋の中に入れていただけました。時間の

定期巡回サービス事例紹介

CASE 01 利用者様:80代女性
要介護1(認知症・糖尿病)

■課題 認知症と糖尿病に罹患されているため、薬の飲み忘れがあり、インスリンの自己注射にも不安がある。また、食事の摂取状況を確認したい。

■解決策 朝食はご自身で作れるため、ご本人ができることは大切にしつつ、「食事表」を通して食事内容を毎日確認した。同時に血糖値測定の見守りを実施し、服薬も確認。インスリンの自己注射は、スタッフが見守る中で行ってもらった。昼・夕は弁当を配食し、受け取り時に安否確認を実施。

■結果 これまでは高血糖で長期入院を繰り返していたが、一日2回の食事・服薬確認により、サービス利用開始後は入院することなく在宅生活を続けることができた。

CASE 02 利用者様:50代女性
要介護2(ガン末期)

■課題 自宅での最期を希望するもの、ご両親は高齢で介護ができない。パット内での失禁があるも、自分でトイレにいく間は行きたい。

■解決策 早朝と深夜帯に定期訪問を実施。排便回数が増えていたため、緊急コールによる随時対応でサービス調整を行う。訪問看護とも連携して随時連絡を取り合った。

■結果 緊急コール対応を中心としたケアで、ご両親の安心感につながった。ご両親は、我が子に寄り添いながら最期を看取ることができた。

